

フットサル競技規則抜粋(U12)

2025 年度

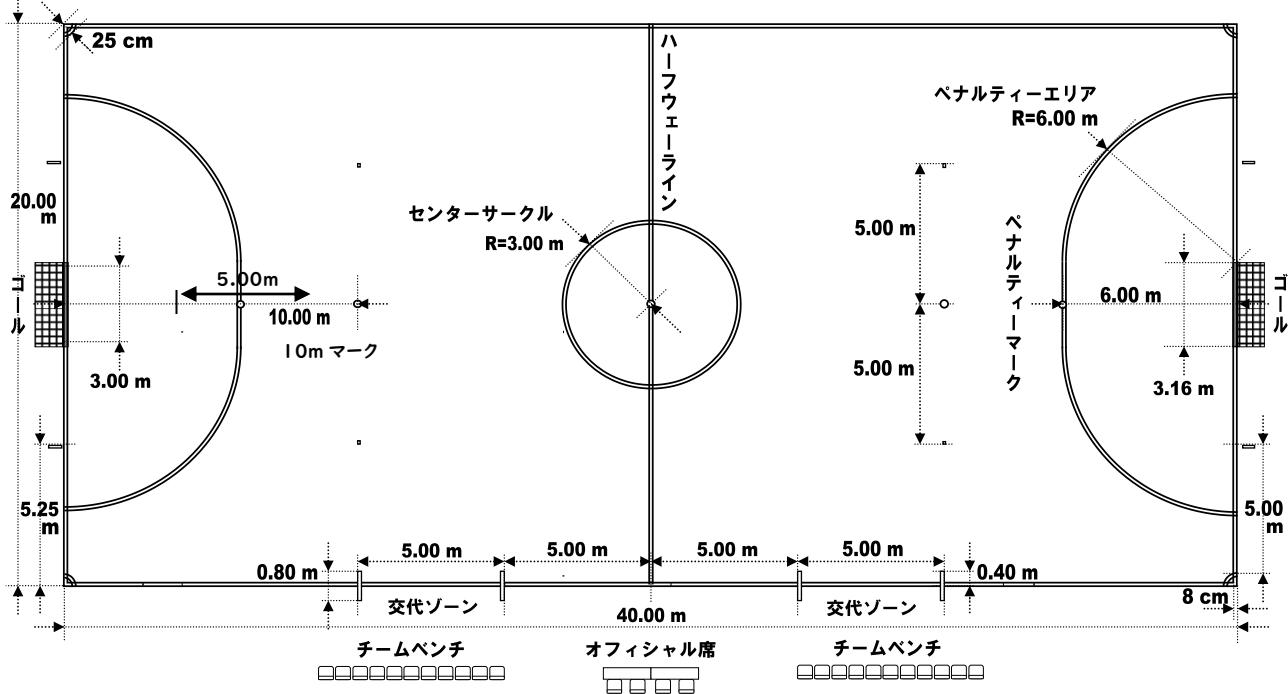
小金井市サッカー協会

第1条 ピッチ

長さ(タッチライン)29m、幅(ゴールライン)18m(国際試合:長さ38m~42m、幅20m~25m)

ゴールの大きさ:高さ2m 幅3m、ゴールポスト・クロスバーの幅と厚さ8cm、すべてのラインの幅8cm

図-1



第2条 ボール

フットサル用ボールを使用(通常4号球)。外周64cm以下62cm以上。重さは試合開始時440g以下400g以上。

空気圧は、0.6~0.9気圧。2mの高さから落下させて最初のバウンドが50cm以上、65cm以下。

U12年代の試合では小学生用3号球を使用。

第3条 競技者

1チーム5人で1人はゴールキーパー。いずれかのチームの競技者が3人未満の場合、試合は開始されない。

また、片方のチームのピッチ上の競技者の数が3人未満になった場合、試合は中止される。

交代要員は、最大9人までとする。試合中の交代回数は無制限で次の条件によりいつでも交代できる。ゴールキーパーも同様にいつでも交代できる。アウトオブプレーを待つ必要はない。本大会は交代要員7人。

定められた交代ゾーン(自分のチームベンチ前)から交代する競技者がピッチから外に出るまで、交代要員はピッチに入ることができない。

【反則と罰則】

- 交代する競技者がピッチから出る前に交代要員がピッチ内に入った場合、プレーは停止される。(アドバンテージを適用できる場合は即座に止めない)
- 交代する競技者は警告され、ピッチから離れるよう命じられる。プレーを停止した場合、ボールのあった位置から相手チームの間接フリーキックにより再開される。

【競技者・交代要員の退場】

交代要員は退場になった競技者に代わることができ、退場後2分間が完全に経過したのち主審の承認を得てピッチに入ることができる。

- 人数の多いチームが得点した場合、人数の少ないチームは一人だけ競技者を補充できる。
- 両チーム同数の競技者でプレーしている場合、2分間が経過するまで同数の競技者のまととする。
- 人数の少ないチームが得点した場合には、そのままの人数で試合を続ける。

※2分間経過する前に得点があった場合の補充

- ・5人 VS 4人 → 5人のチームが得点した場合、補充できる
- ・4人 VS 4人 → 補充はしない
- ・5人 VS 3人 → 5人のチームが得点した場合、1人だけ補充出来る
- ・4人 VS 3人 → 4人のチームが得点した場合、1人だけ補充出来る
- ・3人 VS 3人 → 補充はしない
- ・競技者が退場となる反則を行ったのちアドバンテージが適用され、退場を命じられる前に得点された場合、反則は得点される前に犯されたのでそのチームの競技者数は減らされない。
- ・ハーフタイムのインターバル中、または延長戦の各ピリオド開始前に競技者が退場となる反則を行った場合、そのチームは第2ピリオドまたは延長戦の各ピリオドを一人少ない競技者で開始する。

第4条 競技者の用具

競技者は自分自身や他の競技者に危険となるような用具やその他のもの(宝石類を含む)を身に着けることができない。(競技者を傷つけないものであれば、スポーツめがねの使用は認められる)

- (1)必ず着用しなければならないもの:シャツ、ショーツ、ソックス、すね当て、靴
- (2)靴:キャンバスまたは柔らかい皮革製で、靴底がゴムまたは類似の材質のトレーニングあるいは体育館用シューズ。
(国内ではソールの接地面があめ色か白色、ノンマーキングの靴底が認められている施設増えている)
- (3)ゴールキーパーは、トラックスーツのパンツを着用することができる。
- (4)それぞれのゴールキーパーは、他の競技者及び審判員と容易に区別のつく色の服装をする。
- (5)フィールドの競技者がゴールキーパーと入れ替わる場合、競技者が着用するゴールキーパーのシャツにはその競技者自身の背番号を付ける。
- (6)すね当てはソックスで完全に覆われていなければならない。
- (7)交代要員はビブスを着用する。

第5条 主審・第2審判

主審と第2審判が同時に反則に対して合図をし、どちらのチームを罰するか不一致があった場合、主審の判定が優先される。主審と第2審判は、ともに警告・退場を命ずることができるが、判定が異なった場合主審の判定が優先される。

チーム役員が責任ある態度をとれないのであれば、注意、警告を与える、また、ピッチおよびテクニカルエリアを含むその直近の周辺からの退場を命じる。特定できない場合は、より上位のチーム役員が罰則を受ける。

GK含む競技者が重傷を負ったと判断した場合は、試合を停止し、確実に負傷者をピッチから退出させる。

第6条 その他の審判

第7条 試合時間

試合は16分のランニングタイム。(第1ピリオド、第2ピリオドともに8分間)ハーフタイムのインターバルは2分間。

【各ピリオドの終了】

- 各ピリオドの終了音が鳴ったときに終了する。主審・第2審判が笛で終了の合図がない場合でも、音の合図で終了。
- ・ピリオドの終了間際で6つ目以降のファウルに与えられる直接フリーキックまたは、ペナルティーキックが与えられた場合、この直接フリーキックまたはペナルティーキックが完了した時に、各ピリオドは終了する。次のことが起きたときにいずれかのキックは完了する。
ボールが守備側のGK以外のいずれかの競技者によってプレー・キッカーまたはキッカーのチームの競技者の反則で審判がプレーを止めた場合・ボールが止まったまたはアウトオブプレー
- ・シュートがピリオド終了の音の鳴る前であっても、その後のゴールインは得点として認められない。

第8条 プレーの開始および再開

コインをトスし、勝ったチームは第1ピリオドか第2ピリオドのキックオフを選べる。試合前にベンチは決めておく。

(ベンチは時程表にある左チームはオフィシャル席の左・右のチームはオフィシャル席右とする)

キックオフを行う競技者を除いて、すべての競技者はピッチの自分たちのハーフ内にいなければならない。

ボールがけられて明らかに動いたときにインプレーとなる。

ドロップボールは最後に触れたチームのひとりにドロップし、他のすべての競技者は2m離れていなければならない。

第9条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー

ピッチ面または空中にかかわらずボールがゴールラインまたはタッチラインを完全に超えた、主審・第2審判がプレーを止めた、ボールが天井に当たった場合はアウトオブプレーとなり、それ以外はインプレーである。

第10条 試合結果の決定

GKを含めて手で投げ入れての得点はできない。**キックオフから直接得点できない(U12の試合)。**

勝者を決定するための **PK 戦**は両チーム5本のキックを行う。但し本大会では3本とする。

キックを行う前に、一方のチームの競技者数(交代要員含む)が相手チームより多い場合、競技者数の多いチームは相手チームと等しくなるように競技者数を減らすか、そのままの競技者数で行うか選択できる。

GKがプレーを続けられなくなった場合、他の競技者または交代要員と入れ替わることができる。

GKがペナルティマークからのキックの前または進行中にプレーを続けられなくなったとき、競技者数を等しくするために除外された競技者または交代要員であっても、ゴールキーパーと入れ替わって **PK 戦**に参加することができるが、入れ替わった GK はその後のキックに参加できない。

第12条 ファウルと不正行為

ボールがインプレー中に反則があった場合にのみ、直接、間接フリーキックまたはペナルティーキックを与えることができる。

ボールがインプレー中に競技者が相手競技者に対してピッチ外で体を用いて反則を行った場合、反則が起きたところから最も近い境界線上の地点から行うフリーキックで再開される。

【直接フリーキックで罰せられるファウル】

- ・直接フリーキックで罰せられるファウルの7項目を、不用意に・無謀に・または過剰な力で行った場合。
- ・直接フリーキックで罰せられるファウルの5項目を行った場合。

競技者が手に持ったもの(シューズやすね当てなど)でボールに触れた場合、直接フリーキック(またはペナルティーキック)でプレーは再開される。

※直接フリーキックで罰せられるファウルは、累積ファウルである。

【間接フリーキックで罰せられるファウル】(ゴールキーパーによる反則)

- ・ピッチの自分自身のハーフ内で、4秒を超えて手や腕または足でコントロールする。
- ・ボールをプレーしたのち相手競技者がプレーまたは触れる前に、自分自身のハーフ内で味方競技者によって意図的にゴールキーパーに向かってプレーされたボールに再び触れたとき。(バックパス)
- ・自分自身のペナルティーエリア内で、味方競技者からキックされたボールを直接手または腕で受ける。
- ・自分自身のペナルティーエリア内で、味方競技者がキックインしたボールを直接手または腕で受ける。

※ゴールキーパーがボールを体のいずれかの部分で触ることはボールをコントロールしていると判断されるが、偶発的にゴールキーパーから跳ね返ったボールについてはその範囲ではない。

【退場となる反則】

退場を命じられた競技者または交代要員は、ピッチおよびテクニカルエリア周辺から離れなければならない。

【ボールを手で扱う】

自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが触れる場合を除き、競技者が次のことを行った場合、反則となる。

- ・手や腕をボールの方向に動かす場合を含め、手や腕を用いて意図的にボールに触れる。
- ・ボールが手や腕に触れた後にボールを保持して、またはコントロールして、次のことを行う。

相手競技者のゴールに直接またはその競技者が直後に得点する。

- ・相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害、または阻止するためにファウルを行った場合、警告される。ただし、ボールをプレーしようと試みて反則を行い、ペナルティーキックとなった場合は、警告されない。
- ・相手の得点または決定的な得点の機会を阻止した場合、退場が命じられる。ただしボールをプレーしようと試みて反則を行い相手競技者の決定的な得点の機会を阻止したが、ペナルティーキックとなった場合は、警告される。

第13条 フリーキック

相手競技者は5m以上離れなければならない。ボールがけられて明らかに動いた時にインプレーとなる。

- ・フリーキックを行うチームが4秒を超えて時間を費やした場合、相手チームに間接フリーキックが与えられる。

- ・ペナルティーエリア内で守備側チームに与えられたフリーキックは、エリア内の任意の地点から行える。

- ・守備側の競技者が2人以上で壁を作った場合、攻撃側競技者は壁から1m以上離れる。

【累積ファウル6つ目からのフリーキック DFKSAF】

- ・守備側チームの競技者はフリーキックに対して壁を作れない。

- ・キッカー以外の競技者はボールの後方で、インプレーになるまで少なくとも5m以上ボールから離れなければならぬ。

- ・ゴールキーパーは、自分のペナルティーエリア内で少なくとも5m以上ボールから離れる。

- ・キッカーは正しく特定され、他の競技者にボールをパスすることなく得点を狙ってキックする。

- ・フリーキックが行われたのち、ゴールキーパーがボールに触れるかゴールポスト・クロスバーから跳ね返った後でなければ競技者はボールに触ることはできない。

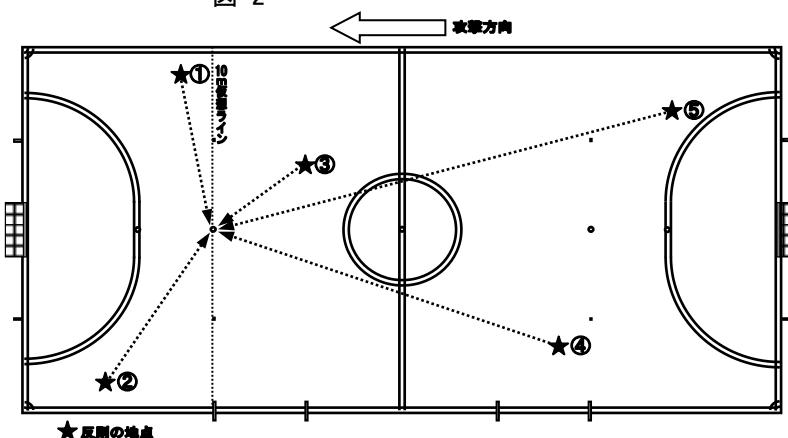
- ・競技者がペナルティーエリア外のピッチの味方ハーフ内の10mの仮想ラインとゴールラインとの間で累積6つ目以降のファウルを行った場合、攻撃側チームはキックを10mマークから行うか、反則が起きた場所から行うか選択する。(図2-1参照)

- ・延長戦が行われる場合、第2ピリオドの累積ファウルはそのまま延長戦に持ち越される。

(1)味方ゴールラインから10メートルの仮想ラインとの間の地域でのファウルはその地点からフリーキック行うか10mマークからのキックを行うかをチームは選択できる。(①、②)

(2)味方ゴールラインから10メートルの仮想ラインまでの地域でのピッチ内のファウルは、10mマークからフリーキックを行う。(③、④、⑤)

図-2



反則	ゴール	ノーゴール
攻撃側チームによる侵入	DFKSAFを再び行う	守備側間接FK
守備側チームによる侵入	得点	DFKSAFを再び行う+ 守備側競技者に注意、以降の反則には警告
GKによる反則	得点	セーブされる: DFKSAFを再び行う+ GKに注意、以降の反則には警告
ボールを後方にする	守備側競技者の間接FK	守備側競技者の間接FK
不正なフェイント	守備側競技者の間接FK+ キッカーに警告	守備側競技者の間接FK+ キッカーに警告
正しくないキッカー	守備側競技者の間接FK+ 正しくないキッカーに警告	守備側競技者の間接FK+ 正しくないキッカーに警告
GKとキッカーが同時に反則を行う	守備側競技者の間接FK+ キッカーに警告	守備側競技者の間接FK+ キッカーに警告

第14条 ペナルティーキック

- ・キッカーを確実に特定する。
- ・ボールがけられるとき、守備側チームのゴールキーパーは、少なくとも片足の一部をゴールラインに触れさせているか、ゴールラインの上方、または後方に位置させておかなければならない。
- ・ボールは、けられて明らかに前方に動いたときインプレーとなる。
- ・キッカー以外の競技者は、ピッチの中にいて、且つペナルティーエリアの外に位置し、ペナルティーマークの後方にいてペナルティーマークから少なくとも5m以上離れる。
- ・ペナルティーキックが行われようとしたとき、ボールの方向に動きキッカーを妨害した相手競技者は、5mの最小距離を守っていたとしても、警告されなければならない。

第15条 キックイン

- ・相手競技者は、ピッチ内で、キックインを行うタッチライン上の場所から少なくとも5m以上離れる。
- ・ボールがピッチから出た地点に必ず静止したボールをける。キッカーの足の位置はピッチの内外どこに置いてても良い。
- ・ボールはライン上に置き、ける準備ができてから4秒以内にける。
- ・キックインから直接得点することはできない。

第16条 ゴールクリアランス

- ・攻撃側競技者が触れたボールがゴールラインを越え第10条の得点とならなかった場合ゴールクリアランスとなる。
- ・ボールは、投げられるかまたはリリースされて明らかに動いた時にインプレーとなる。
- ・相手競技者はボールがインプレーになるまでペナルティーエリアの外にいる。
- ・守備側のゴールキーパーがペナルティーエリア内の任意の地点からボールを投げるまたはリリースする。
- ・ゴールクリアランスからは直接得点することはできない。
- ・守備側のゴールキーパーがゴールクリアランスを行う準備ができてから、4秒以内に行う。
- ・ボールがインプレーになったのち、相手競技者がプレーまたは触れていないにもかかわらず、ゴールキーパーが自分自身のハーフ内で味方競技者によってゴールキーパーに向けて意図的にプレーされたボールに再び触れた場合、反則が起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。
- ・ゴールクリアランスが正しく行われなかつた場合は(ペナルティーエリア外から投げるなど)、やり直しとなる。

第17条 コーナーキック

- ・ボールが出た地点に近い方のコーナーアークの中にボールを置く。
- ・相手競技者は、ボールがインプレーになるまで、ピッチ内でコーナーアークから少なくとも5m以上離れる。
- ・コーナーキックの進め方で反則があった場合、4秒以内に行われなかつた場合も含めて、相手チームのゴールクリアランスとなる。

● 12歳以下の競技会における制限

- ①インプレー中またはゴールクリアランスでGKが投げた(けった)ボールが直接ハーフウェーラインを超えた場合は、ハーフウェーラインを越えた場所からの、相手競技者の間接フリーキックを行う。
- ②キックオフから直接得点することは認められない。

● 注意点

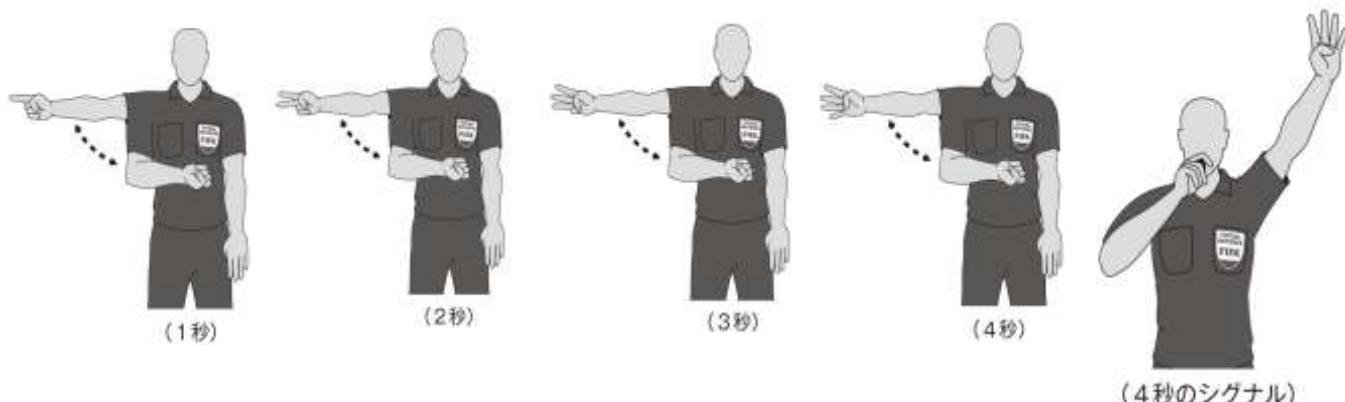
キックインは、ボールはライン上、足はラインを超えて構わない。

キックオフはボールが明らかに移動したらインプレー。後方へけることができる。

ゴールクリアランスはペナルティーエリア内で味方競技者へパスできる。

● 4秒カウントのシグナル

キックイン・フリーキック・コーナーキック・ゴールクリアランス・インプレー中のキーパーが保持した時

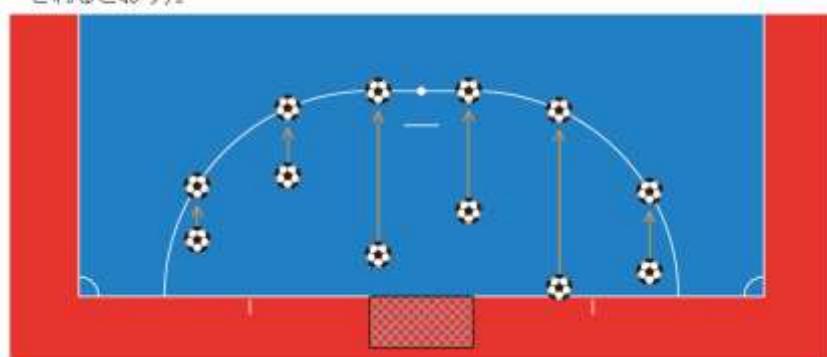


4秒を超えた場合

	再開方法
キックイン	相手競技者のキックイン
コーナーキック	ゴールクリアランス
ゴールキーパー保持	相手競技者の間接フリーキック(位置については下図参照)
ゴールクリアランス	相手競技者の間接フリーキック(位置については下図参照)
フリーキック(直接・間接)	相手競技者の間接フリーキック

ゴールキーパーがボールを保持した場合の4秒を超えた場合

場所から最も近いペナルティーエリアのライン上の地点から行われる(下の図に示されるとおり)。



試合中 PK の審判位置



勝敗を決する PK の審判位置

